

保険薬局のかかりつけ機能が地域支援体制に及ぼす影響

布施 由美子¹⁾、安達 順子¹⁾、井上 順子¹⁾、梶山 由紀¹⁾、村上 千秋¹⁾、
中野 智子¹⁾、菊地 和樹¹⁾、金 順伊²⁾、保坂 茂³⁾、前田 守⁴⁾、
長谷川 佳孝⁴⁾、月岡 良太⁴⁾、森澤 あずさ⁴⁾、酒井 雅人²⁾、大石 美也⁴⁾

- 1) 株式会社あさひ調剤 さつき薬局
- 2) 株式会社あさひ調剤
- 3) 株式会社あさひ調剤 あさひ調剤薬局小川店
- 4) 株式会社アインホールディングス

【目的】2015年厚生労働省策定の「患者のための薬局ビジョン」で保険薬局が地域包括ケアシステムの一翼を担うことが求められるなか、2018年4月の調剤報酬改定で保険薬局の地域支援体制を評価する8項目が示された。そこで、当薬局(調剤基本料3-口)のこれら実績を調査し、かかりつけ機能との関係性を考察した。

【方法】8項目を「薬学的管理指導体制」「多職種連携体制」「24時間対応などのニーズへの対応体制」に3分類し、それぞれの代表として外来服薬支援(外来支援)、服薬情報提供(TR)、時間外電話対応(電話対応)に注目した。2017年9月から2018年8月の当薬局実績を、薬歴などで集計した。結果は、かかりつけ薬剤師管理指導料算定状況からかかりつけ薬剤師がかかりつけ患者に対応した場合(かかりつけ群)とそれ以外(非かかりつけ群)に分類し、有意水準0.05のカイ二乗検定とWelch's t検定で解析した。

【結果】処方箋受付回数は18,138件、かかりつけ薬剤師管理指導料の算定件数は3,720件(20.5%)であり、その算定率は当グループ984店舗の平均算定率5.3%よりもはるかに高かった。かかりつけ群の外来支援とTRの実施率はそれぞれ1.2%、2.4%であり、非かかりつけ群(0.31%、0.35%)よりも有意に高かった。かかりつけ群の電話対応は240件(月平均20.0±7.8件)であり、非かかりつけ群の118件(月平均9.8±6.6件)よりも有意に多かった。

【考察】3項目全てでかかりつけ群の実施率が非かかりつけ群よりも有意に高く、かかりつけ機能の地域支援体制への寄与が示唆された。特に当薬局はかかりつけ機能の発揮が強く、薬薬連携強化にもつながり、3項目以外も地域支援体制加算の算定要件を満たすまで実績を積み上げられた。今後も、かかりつけ機能はもちろん、健康サポート機能や高度薬学管理機能も発揮し、地域包括ケアシステムの一翼の役割を果したい。

(日本薬学会第139年会(2019年3月、幕張)にて発表)